

## 教員詳細情報

九州看護福祉大学

氏名	福崎 千鶴
連絡先メールアドレス	fukuzaki@kyushu-ns.ac.jp
役職・職名	准教授
所属	看護福祉学部 社会福祉学科
略歴	<p><b>【学歴】</b>  鹿児島県医療法人協会立看護専門学校専門課程 卒業  鹿児島県立短期大学商経科 卒業  鹿児島国際大学福祉社会学部社会福祉学科 卒業  鹿児島国際大学大学院福祉社会学研究科修士課程 修了  鹿児島国際大学大学院福祉社会学研究科博士後期課程 修了</p> <p><b>【職歴】</b>  医療法人康成会 植村病院 (看護師)  鹿児島県済生会 指定居宅介護支援センター高喜苑 (介護支援専門員)  医療法人博愛会 相良病院 (外科および緩和ケア病棟 看護師)  鹿児島県身体障害者更生相談所 (更生医療担当)  鹿児島医療福祉専門学校看護学科 専任教員  鹿児島市谷山福祉事務所 (生活保護課 社会福祉士)  九州看護福祉大学看護福祉学部社会福祉学科 専任講師  九州看護福祉大学看護福祉学部社会福祉学科 准教授 (現在に至る)</p>
取得学位	博士 (社会福祉学) 修士 (社会福祉学)
担当科目	<p><b>【学部】</b>  基礎演習Ⅰ・Ⅱ  相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ  相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱ  相談援助実習  ボランティア論  社会福祉特別演習Ⅰ・Ⅱ、卒業論文指導</p> <p>2018年度迄下記を担当  精神保健福祉援助演習Ⅰ・Ⅱ  精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ  精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ</p> <p><b>【大学院】</b>  精神保健ソーシャルワーク論</p>
専門分野	社会福祉学・看護学・ソーシャルワーク論・高齢者福祉論・公的扶助論

	終末期支援・医療福祉
所属学会 等	日本社会福祉学会、日本老年社会科学会、日本認知症ケア学会 NPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク
現在の研究テーマ	1.認知症の人と家族の生活支援に関する研究 (終末期ケア・グループケア・災害時の支援を含む) 2.セルフヘルプ・グループの機能を活かした支援に関する研究 3.高齢者の貧困問題に関する研究 4.ソーシャルワーク実践に関する研究 5. 水俣病事件に関する研究
教育研究業績 (著書・学術論文等)	<p><b>【著書】</b></p> <p>1) 共著『保健医療サービスとソーシャルワーク』法律文化社, 2010年. 2) 共著『21世紀の現代社会福祉用語辞典』学文社, 2013年. 3) 共著『少子高齢化社会の家族・生活・福祉』時潮社, 2016年. 4) 共著『相談援助演習 [第4版] —ソーシャルワーク演習【社会福祉士シリーズ21】』弘文堂, 2020年.</p> <p><b>【学術論文】</b></p> <p>1) 単著「医療機関での身体拘束の認識と実施頻度に関する研究」『九州社会福祉学』2007年. 2) 単著「やすら木会の活動について—世話人と会員の方への調査から—」『第23回全国研究集会抄録と誌上報告』2007年. 3) 単著「認知症高齢者支援システムとセルフヘルプ・グループの機能に関する研究」2008年。(修士論文) 4) 単著「認知症高齢者の介護とセルフヘルプ・グループの活動に関する研究」『鹿児島国際大学社会福祉学会誌』第7号, 2008年. 5) 単著「自然災害時における生活保護課のソーシャルワーク実践と課題—東北大震災の被地調査結果から—」『九州社会福祉学』第11号, P71-81, 2015年。(日本社会福祉学会九州地域部会) 6) 単著「認知症高齢者支援システムとセルフヘルプ・グループ機能に関する研究—認知症の人と家族の会 A 県支部会員の取り組みより—」『鹿児島国際大学大学院論集』第7集, P11-21, 2015年. 7) 単著「認知症支援システムにおけるセルフヘルプ・グループの可能性—認知症高齢者と家族介護者のソーシャルワーク実践に関する研究—」2018年。(博士論文)</p> <p><b>【研究報告書】</b></p> <p>1) 共著「ふれあいプラザなのはな館」高齢者中央大学に関する調査」『2006年度大学院プロジェクト研究報告書』2007年.</p> <p><b>【研究ノート】</b></p> <p>1) 共著「認知症家族介護者への電話相談の効用と可能性」『鹿児島国際大学福祉社会学部論集』第33巻1号, 2014年.</p>

2) 共著「認知症の人と家族の会の介護者支援における対面的相互効果」『鹿児島国際大学大学院学術論集』第6集, P55-60, 2014年.

【学会発表】

1) 単独「医療機関での身体拘束に関する研究—身体拘束の認識と実施頻度に焦点をあてて—」日本社会福祉学会(九州部会), 平成18年12月.

2) 共同研究「身体拘束の実施と解決策についての検討—自由回答を中心とした検討による考察—」日本社会福祉学会, 平成19年9月.

3) 共同研究「ふれあいプラザなのはな館」高齢者中央大学に関する研究—受講者状況, 受講状況—(1) 日本社会福祉学会(九州部会), 平成19年12月.

4) 共同研究「ふれあいプラザなのはな館」高齢者中央大学に関する研究—高齢者中央大学の影響と今後の課題—(2) 日本社会福祉学会(九州部会), 平成19年12月.

5) 単独「認知症の人と家族の会の対面的相互作用による介護者支援—在宅認知症介護者の集い・講演会参加についての一考察—」老年社会科学会, 平成20年6月.

6) 単独「電話を通じた介護者支援の現状と可能性—認知症の人と家族の会による電話相談について—」老年社会科学会, 平成20年6月.

7) 単独「認知症高齢者支援システムとセルフヘルプ・グループの機能—認知症の人と家族の会A県支部会員へのインタビュー調査から—」日本保健福祉学会, 平成20年11月.

8) 単独「日本の高齢者福祉制度について」韓日保健医療福祉研究会, 平成26年2月.

9) 単独「自然災害時における公的機関のソーシャルワーク実践と課題—東北大震災の被災地調査結果から—」鹿児島国際大学大学院福祉社会学研究科第3回研究会, 平成26年12月.

10) 単独「自然災害時における生活保護課のソーシャルワーク実践と課題—東日本大震災の被災地調査結果から—」日本社会福祉学会(九州部会), 平成27年6月.

11) 単独「セルフヘルプ・グループの機能を活かした認知症高齢者の支援に関する研究—認知症の人と家族の会A県支部の取り組み—」日本社会福祉学会, 平成27年9月.

12) 単独「A study of self-help groups of elderly people with dementia : Based on activities by a prefectural chapter of the Alzheimer's Association Japan」 33rd International conference of Alzheimer's Disease International. 平成29年4月.

13) 単独「認知症高齢者支援システムにおけるセルフヘルプ・グループの機能と可能性—「韓国認知症家族協会」と日本の「家族の会」の取り組みに焦点をあてて—」東アジア日本学術学会, 令和元年5月18日(韓国:韓瑞大

	<p>学校).</p> <p>14)「認知症高齢者支援システムにおけるセルフヘルプ・グループの機能と可能性－副題: 一韓国認知症家族協会と公益社団法人認知症の人と家族の会の合同による活動史一」日本社会福祉学会, 令和元年9月.</p>
<p>社会活動・社会貢献</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公益社団法人 認知症の人と家族の会・鹿児島県支部 会員</li> <li>・認知症高齢者グループホーム外部評価調査員</li> <li>・地域密着型サービス評価調査員</li> <li>・介護サービス情報の公表調査員</li> <li>・認定社会福祉士のスーパーバイザー</li> <li>・平成27年度 ハートフルコンサート実行委員</li> <li>・熊本地震 災害ボランティア活動 (平成28年4月～)</li> <li>・菊池市地域密着型サービス運営委員会委員 (平成30年～)</li> </ul> <p>【教育関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿児島国際大学 非常勤講師 (現代社会と福祉) (平成24年度)</li> <li>・九州保健福祉大学 非常勤講師 (総合福祉研究 他) (平成22年4月～)</li> <li>・筑紫女学園大学 非常勤講師 (ソーシャルワークの方法 他) (平成26年4月～)</li> <li>・九州看護福祉大学公開講座講師 (平成27年1月)</li> <li>・玉名市 医学的基礎知識研修 講師 (平成31年2月)</li> </ul> <p>【学術学会等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水俣病・水俣再生市民学会 (熊本県水俣市): コーディネーター (令和元年8月31日～9月1日)</li> </ul>